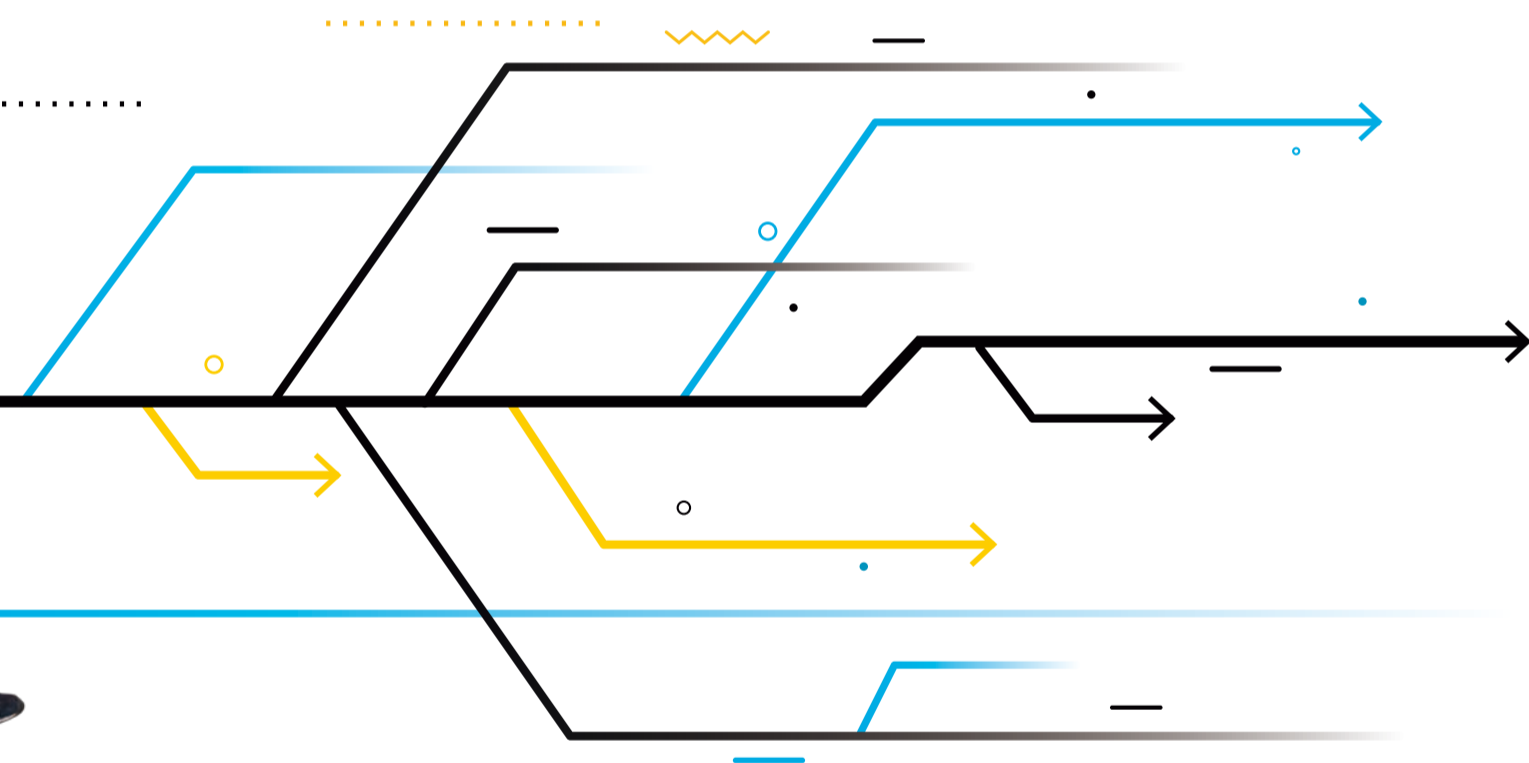
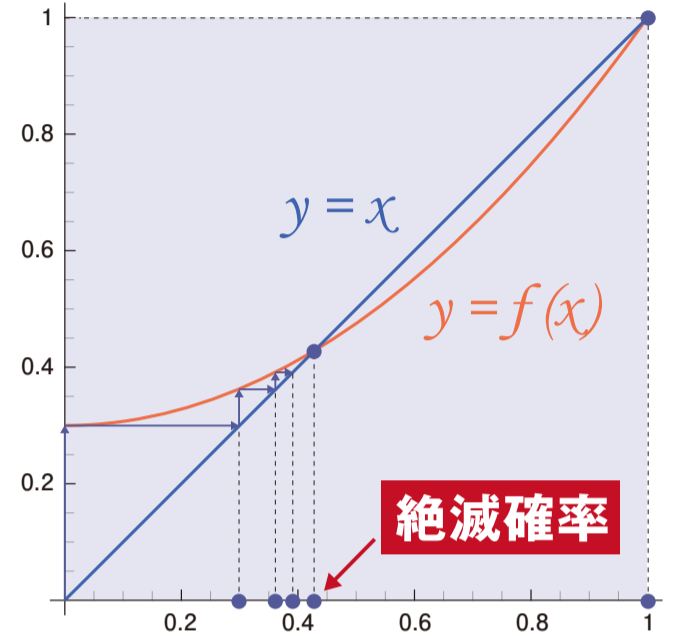


協力:大阪大学21世紀懐徳堂

分枝過程の絶滅問題!

分枝過程とは、単細胞生物のような個体の集まりが、分裂や消滅を伴いながら時間発展する様子を記述した確率モデルのことです。分枝過程の絶滅問題とは「個体群がいつかすべて消滅するか否かを明らかにせよ」というものです。この問題の起源は、Francis Galtonが1873年に提示した「貴族の姓の消滅問題」です。Galtonが提示した問題に対して、同年に the Reverend Henry William Watsonが解答を発表しました。このことにちなみ、分枝過程は Galton-Watson過程とも呼ばれています。

本講座では分枝過程の絶滅問題を紹介し、その答えを解説します。また、この問題に関する歴史的経緯について説明するとともに、理解を深めるために具体的な計算例も与えます。なお、分枝過程の絶滅問題の答えの中に「臨界性定理」と呼ぶべきものが現れます。このことはパラメータに応じて状況が劇的に変化することを表すものであり、現代数学でも様々な形で現れます。



日時 2019年8月8日(木)
14:00~16:00(入場開始 13:30)

場所 理学部E棟4階 E404 大セミナー室
※満席の場合サテライト会場 E301 にご案内します。

講師 塩沢 裕一 准教授

問い合わせ先 理学研究科 数学専攻事務室
E-mail: kouhou@math.sci.osaka-u.ac.jp

参加費・事前申し込みは不要です。
直接会場にお越しください。

オープンキャンパスも同時開催されます!

オープンキャンパス参加には事前申し込みが必要です。
▶ <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/admissions/guidance>

